

資料 1

中部様式1

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

尾鷲市地域公共交通活性化協議会

平成20年5月28日設置

フィーダー系統 平成29年5月31日 確保維持計画策定

■ 地域の特徴と背景

○本市は、市域の約92%が山林で、沿岸部には変化に富んだリアス式海岸が形成されるなど、豊かな自然環境に恵まれている一方、市街地周辺部には10ヶ所の集落が点在し、それぞれの地域において過疎高齢化が進行していることから、これらの各地域の公共交通をいかにして結ぶかが重要な課題となっている。

■ 地域公共交通網形成計画の目標及び期間

○目標 「人口減少時代にも持続可能な公共交通を確保し、定住促進・地域の活性化を目指す」

○期間 平成29年度～平成33年度

■ 公共交通の将来像

○基本方針

①地域ごとの特性に応じた公共交通網の形成とサービスの確保

②まちづくりと連携した総合的な地域公共交通の確保

○公共交通網見直しの方向性

- ・地域住民懇談会等での意見を踏まえ、現行ネットワークを基本に、ルート、ダイヤを見直す。
- ・集落支援員の活用など、地域主体の取り組みなどとの連携を図る。



尾鷲市地域公共交通活性化協議会にて、網計画に定められた事業の取り組み状況を評価・分析し、必要に応じて次年度の事業の改善等に反映して事業を推進する

■基本方針 1 地域ごとの特性に応じた公共交通網の形成とサービスの確保

①市民の公共交通に対する満足度を高め、利用者増につなげるとともに、市民の安全、安心な生活を確保し、定住促進につなげる

指標	基準値	目標値
ふれあいバスの利用者満足度	OH28年度実績 平均 0.81	OH33年度目標 平均 0.85
地区センター管内から尾鷲高校への通学確保	OH28年度実績 26%	OH33年度目標 30%

■基本方針 2 まちづくりと連携した総合的な地域公共交通の確保

②公共交通相互の連携強化等による地域全体の利便性を向上させる

③観光施策等と連携した公共交通ネットワーク・サービスを形成する

指標	基準値	目標値
公共交通利用者数	OH28年度実績 ふれあいバス:57,000人	OH33年度目標 ふれあいバス:57,000人
ふれあいバスの尾鷲駅での乗降客数	OH27年度実績 8,052人	OH33年度目標 9,259人(15%増)
ふれあいバスの観光拠点での乗降客数	OH27年度実績 3,805人	OH33年度目標 4,375人(15%増)

■ 目標を達成するために行う事業・実施主体

【補助対象事業】

- ・ 地域公共交通確保維持改善事業

- 尾鷲長島線・島勝線（地域間幹線）の運行【三重交通】

- ふれあいバス（フィーダー）の運行【平成18年より継続、尾鷲市】

- 調査事業（網形成計画の策定）【平成28年度、尾鷲市】

- ・ その他補助事業 なし

【非補助事業】

- ふれあいバスのルート・ダイヤの変更（平成29年10月1日実施）【尾鷲市】

- 総合時刻表の作成【尾鷲市 別紙参照】

- 毎年、バス車内、停留所において利用者アンケートを実施【尾鷲市】

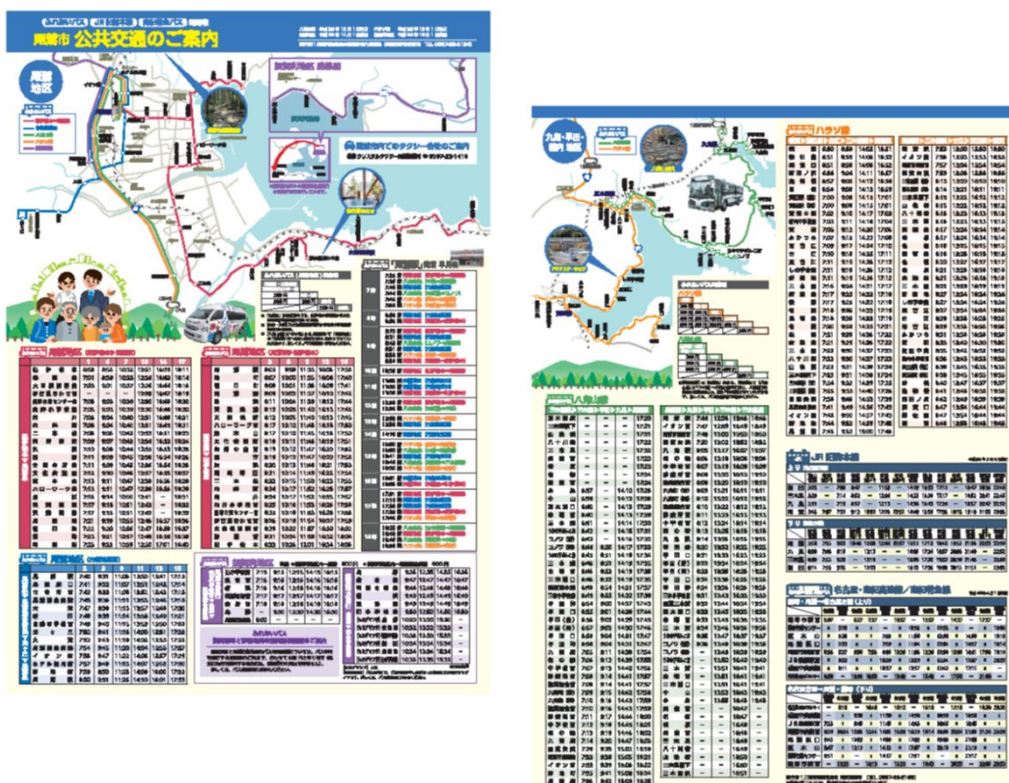
- ふれあいバス須賀利地区と三重交通島勝線との乗継割引（600円に平準化）【尾鷲市】

- 地元スーパーとの協賛事業（2,000円以上の買い物で200円のふれあいバス割引券を配布）【事業者】

- ＪＲ紀勢本線の利用促進【南紀・東紀州交通対策委員会】

- 尾鷲駅前広場ロータリーの車動線整備検討【尾鷲市、交通事業者】

平成29年10月1日～

尾鷲駅前広場ロータリーの
車動線整備検討

■生活交通確保維持改善計画に掲げられた目標値についての評価

○バス利用者に対する満足度調査

	目標値 (H29年度)	実績 (H29年度)	評価
八鬼山線	0.76	0.76	目標値と同数であり、継続して満足度の維持を図っていく。
ハラソ線	0.91	0.91	目標値と同数であり、継続して満足度の維持を図っていく。
尾鷲地区	0.90	0.91	目標値と同数であり、継続して満足度の維持を図っていく。
須賀利地区	0.71	0.85	目標値を上回っており、継続して満足度の維持を図っていく。
満足+2、概ね満足+1、普通0、やや不満-1、不満-2 の平均値			

○地区センター管内から尾鷲高校への通学確保

	目標値	実績	評価
割合	30%	44%	18人中8人がバスを利用して通学しているため、引き続き通学手段の確保を行っていくとともに、利用者の増加につなげていく。

①目標の達成状況に関する課題

- 目標（評価指標及び基準）の妥当性に関する課題
- 事業実施のあり方に関する課題
- 事業実施効果を高める施策に関する課題

②公共交通ネットワークに関する課題

- 地域ごとの住民要望への対応

八鬼山線：ふれあいバスのダイヤ調整、尾鷲駅接続

ハラソ線：賀田中奥、名柄地区への延伸

ふれあいバスのダイヤ調整、尾鷲駅接続

尾鷲地区：交通不便地域への対応

須賀利地区：尾鷲直通便、島勝での待機時間延長

- J R尾鷲駅への八鬼山線、ハラソ線の乗り入れとダイヤ調整（特急連絡等）

③公共交通の維持に関する課題

- 集落支援員活用の検討（九鬼地区ほかで検討中）
- ふれあいバス須賀利地区と三重交通島勝線との調整

②については、住民等との協議を経て、10月1日のダイヤ改正にて一定の対応を行った。今後もニーズに応じたネットワークの検討を継続して実施する。

③の課題については、

- 集落支援員については、九鬼地区ほかの各地区にて導入を検討している。

- 三重交通島勝線については、三重県が主催する路線検討会議に参加し、乗車人員の増加を目的とした取り組みを検討していく。

①の課題については、②、③の実現を踏まえて対応。

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

尾鷲市地域公共交通活性化協議会

平成20年5月28日設置

フィーダー系統 平成29年5月31日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
多様な公共交通機関を有機的に連携させた、持続可能な公共交通ネットワークを構築することを期待する	網計画に基づき、ダイヤの改正を10月1日に行った。八鬼山線・ハラソ線の尾鷲駅への乗り入れを行い、JR紀勢線への接続利便性の向上を図った。 また、地区住民の強い要望により、須賀利地区において、尾鷲総合病院への直行便の運行を、朝の1便のみ開始した。	乗車実績を注視しつつ、持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けて引き続き取り組んでいく。
島勝線の乗継運賃補助については有効な取組	平成27年度より継続して実施。	今後も実施予定。

①ふれあいバス路線ごとの利用者の評価を把握

- ・毎年、バス車内、停留所において利用者アンケート調査を実施し、公共交通に対する評価を継続して把握している。

②民間事業者とのタイアップによる利用促進の継続

- ・地元スーパーとのタイアップ事業（一定の買い物でふれあいバス割引券を配布）を継続して実施している。

③ダイヤ改正による乗車環境の改善

- ・須賀利地区において、尾鷲総合病院への直行便の運行を、朝の1便のみ開始した。また、紀北町島勝地区での滞在時間を確保するため、セミデマンドの定時運行も開始した。

- ・ハラソ線において、賀田中奥地区、名柄地区への路線延長を行った。

- ・尾鷲駅でのＪＲ特急への接続利便性を向上させるため、八鬼山線・ハラソ線の運行時刻を調整するとともに、尾鷲駅前への乗り入れを開始した。また、駅前での乗り換えに伴う待合環境の向上のため、ＪＲ東海のご協力のもと、尾鷲駅前広場ロータリーの車動線を整備し、雨天時にも屋根下で快適に乗り換えできるよう、現在調整を進めている。

- ・尾鷲駅に各路線を集約することにより、より広範囲に移動することが可能となった。

- ・八鬼山線・ハラソ線において、基幹病院である尾鷲総合病院から、輪内方面への帰宅時間の利便性の向上を図るため、運行時刻の調整を行った。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月12日

協議会名: 尾鷲市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運 行(航)区間、整備内容等を記 載(陸上交通に係る確保維持 事業において、車両減価償却 費等及び公有民営方式車両購 入費に係る国庫補助金の交付 を受けている場合、離島航路に 係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検 討の経費を除く。)を受けている 場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間に おいて、前回の事業評価結果 をどのように生活交通確保維 持改善計画に反映させた上で 事業を実施したかを記載】	A ・ B ・ C 評価	【計画に基づく事業が適切 に実施されたかを記載。計 画どおり実施されなかった 場合には、理由等記載】	A ・ B ・ C 評価	【計画に位置付けられた定 量的な目標・効果が達成さ れたかを、目標ごとに記載。 目標・効果が達成できな かった場合には、理由等を 分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより 適切な目標を記載。改善策は、 事業者の取り組みだけでなく、 地域の取り組みについて広く記 載。特に、評価結果を生活交通 確保維持改善計画にどのよう に反映させるか(方向性又は具 体的な内容)を必ず記載するこ と。】 ※なお、当該年度で事業が完 了した場合はその旨記載
三重交通	尾鷲市コミュニティバス八鬼山 線 瀬木山～三木浦～三木里駅前 三木里駅前～東古江	聞き取り調査からおおむね満 足しているとの回答が多く、こ れまで路線延長や停留所の増 設、時刻改正など行ってきた結 果、利用者の一定の理解を得 られている路線であると考えら れる。	A	運行計画日数を計画どお り運行し、事業は適切に実 施された。	A	アンケート調査(聞き取り 調査)において、満足度調 査を行い(0を基準とし最大 値+2、最小値-2)、目標の 0.76に対して0.76で、目標を 達成した。	引き続き、利用促進を図るた め、聞き取り調査等を行い利便 性の向上に取り組む。 本線は尾鷲駅への乗り入れ を平成29年10月1日から開始 したが、尾鷲駅前広場の車道 線を整備し、雨天時等における 待合利便性の向上を図る。
三重交通	尾鷲市コミュニティバスハラソ 線 天満堤防～三木里駅前～梶賀	聞き取り調査からおおむね満 足しているとの回答が多く、こ れまで路線延長や停留所の増 設、時刻改正など行ってきた結 果、利用者の一定の理解を得 られている路線であると考えら れる。	A	運行計画日数を計画どお り運行し、事業は適切に実 施された。	A	アンケート調査(聞き取り 調査)において、満足度調 査を行い(0を基準とし最大 値+2、最小値-2)、目標の 0.91に対して0.91で、目標を 達成した。 この路線は満足度が高い 路線で、一定のニーズを満 たすことはできた。	引き続き、利用促進を図るた め、聞き取り調査等を行い利便 性の向上に取り組む。 本線は尾鷲駅への乗り入れ を平成29年10月1日から開始 したが、尾鷲駅前広場の車道 線を整備し、雨天時等における 待合利便性の向上を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
尾鷲市	尾鷲市コミュニティバス尾鷲地区 尾鷲駅～朝日町～紀伊松本 尾鷲駅～光ヶ丘～尾鷲駅	聞き取り調査からおおむね満足しているとの回答が多く、これまで路線延長や停留所の増設、時刻改正など行ってきた結果、利用者の一定の理解を得られている路線であると考えられる。	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	A アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(0を基準とし最大値+2、最小値-2)、目標の0.90に対して0.91で、目標を上回った。 聞き取り調査から「市民のバス」として定着してきていることが感じられた。またスーパーとのタイアップ事業なども定着してきているのが満足度向上につながっていると思われる。	引き続き、利用促進を図るため、聞き取り調査等を行い利便性の向上に取り組む。 尾鷲駅前広場の車道線を整備し、雨天時等における待合の利便性を図り、加えて輪内方面も含めた市内全域への移動利便性の向上を図る。
尾鷲市	尾鷲市コミュニティバス須賀利地区 旧小学校前～島勝	聞き取り調査からおおむね満足しているとの回答が多く、これまで運賃の平準化、路線延長、停留所の増設や時刻改正など行ってきた結果、利用者の一定の理解を得られている路線であると考えられる。	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	A アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(0を基準とし最大値+2、最小値-2)、目標の0.71に対して0.85で、目標を大きく上回った。 運賃平準化のニーズを満たすことができたことが要因と考えられる。	引き続き、利用促進を図るため、聞き取り調査等を行い利便性の向上に取り組む。 今回のダイヤ改正において、紀北町及び交通事業者と協議を行い、地区住民からの強い要望のあった尾鷲総合病院への直行便を、平成29年10月1日から、1便目のみ開始した。また、紀北町島勝地内での郵便局等施設利用の利便性を考慮し、セミデマンドによる運行を2便目から4便目で開始した。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月12日

協議会名：	尾鷲市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	本市は、市域の約92%が山林で、沿岸部には変化に富んだリアス式海岸が形成されるなど、豊かな自然環境に恵まれている一方、市街地周辺部には10ヶ所の集落が点在し、それぞれの地域において過疎高齢化が進行していることから、これらの各地域の公共交通をいかにして結ぶかが重要な課題とされてきました。 本市の公共交通機関は、鉄道、路線バス、タクシーがその役割を担っています。鉄道はJR紀勢本線、路線バスは「尾鷲長島線」、「島勝線」、「ふれあいバス尾鷲地区」、「ふれあいバス須賀利地区」、「ふれあいバスハラソ線」、「ふれあいバス八鬼山線」と、都市等を結ぶ長距離バスが運行されています。 少子高齢化・過疎化等の理由により、本市の高齢化率は年々増加傾向にあり、通勤や通学で利用する人口も減少を続け、公共交通サービスを維持確保していくためにはより多くの市民が公共交通を利用する必要があり、まちづくりと一体となった公共交通の利用促進が求められます。 これを実現するために、市民ニーズに応じた生活交通を確保することを目的として、持続可能な地域公共交通確保維持改善事業に取り組んでまいります。